

# For the next Generation

## 一次世代を担うグローバル市民の育成

ソニー(株) CSR 部部长  
富田秀実

ソニーの創業者である井深大は、ソニーの設立趣意書の中で「国民科学知識の実際の啓発」をソニー創業の目的の一つと位置づけている。その理念に基づき、創業まだ間もない 13 年後の 1959 年には、理科教育において優れた教育を目指している小学校を支援する「ソニー小学校理科教育振興資金」を設立した。その背景は、井深が、戦後間もない日本において科学技術の振興こそが社会を立て直す、そのためには次世代を担う子どもたちの理科教育に注力することが重要と考えたためである。その井深の志を引き継ぎ、現在のソニーでは「For the Next Generation (次世代のために)」をテーマに、次の社会を担う世代の育成を目指した活動を重点分野として、グローバルに多様な活動を展開している。

### 次世代を担う若者たちに焦点

ソニーは日本企業の中でもいち早く海外に進出した、いわばグローバル化の先駆けとなった企業である。このようなビジネス展開の下、「それぞれの地域では完全にローカライズしながら、共通の技術と哲学を持ったグローバルな会社の企業活動の一環としてオペレートする」という“グローバル・ローカライゼーション”を理念として掲げ、「日本の海外進出企業とその従業員および家族が“民間大使”として地域社会に溶け込む」という“企業市民”の重要性を打ち出していた。特に 1980 - 90 年代は日本企業の海外進出が続いたが、そのいわば負の側面として、日米間

でも貿易摩擦が顕在化した時代でもあった。

このような背景の下、ソニーエレクトロニクス(米国) 創立 30 周年を記念し、1990 年から 10 年にわたり、新たなプログラムを実施する。それは次のグローバル社会を担う若者に焦点を当て、米国各州から毎年高校生を日本に招聘し、日米の相互理解を草の根レベルで促すことを目的とした、中長期的な視点から取り組む新たなかたちの社会貢献活動の試みであった。

### 日中交流プログラムがスタート

2006 年からは、この日米交流プログラムの発想をもとに、ソニー・チャイナ創立 10 周年とソニー(株)創立 60 周年を記念して、中国の高校生を対象としたプログラム「索尼海外学生交流計画 (Sony Student Project Abroad (China))」を開始した。このプログラムは、中国最大の青年団体である中華全国青年連合会との共同主催で、中国各



日中交流プログラムの作文コンテストで入賞し、来日した中国の高校生たち

地から次世代を担う高校生を日本に招き、日本の企業や学校、家庭での生活体験を通じて日本の文化や社会に対する理解を深めることを目的としている。同時に、現在中国においても深刻な問題となっている「環境問題」を中心テーマに取り上げ、日本の進んだ環境への取り組みを、中国の若者たちに体験してもらうプログラム構成となっている。2007年のプログラムでは、北京・杭州・成都の3都市で、作文コンテストを通じて選ばれた高校生30名が来日した。

参加した中国の高校生は、環境ジャーナリストやソニーの専門家による環境問題や環境技術に関する最先端の講義、リサイクル工場の見学体験などを通じて環境に関する知識を学ぶほか、製品を分解するワークショップを通じて、環境に配慮した設計についての実体験も得ることができ

## 議論し創る、未来のエコシティ

また、日本の高校生との交流イベントとして、中国語を学ぶ日本人高校生と合同で、「30年後の未来都市」をテーマにしたワークショップに取り組んだ。このワークショップでは、環境に配慮した未来都市を、日中の高校生と一緒に構想して模型を制作する。理想的なエコシティのイメージを互いに伝え合い、共有し、議論しながら作業を進める密度の高いものである。グループに分かれて模型を完成した後は、各グループが考えた街づくりのコンセプトについて日中の高校生が協力して発表、専門家から批評を受け、優秀なグループには表彰がおこなわれた。

中国の高校生に日本の生活を体験してもらうために、ソニーの社員宅でのホームステイも実施、節水やごみの分別といった日本の一般家庭での日常的な環境配慮について学びながら、ホストファミリーと日本の文化や家庭生活に触れる週末を過ごした。

日本での最終日におこなわれた送別会は、ホストファミリーやプロジェクトスタッフとの別れを



日中の高校生が協力してエコシティを製作



送別会で、ホストファミリーやスタッフたちと交流

惜しみ、ほとんど全員の高校生が泣き崩れるほどの感動的なものであった。帰国後に実施された北京での発表会では、日本で学んだ、環境問題や日本の生活文化に関する創意あふれる報告がおこなわれ、多くの中国メディアで報道された。

後日、中国放送局 CCTV で、この SSPA の 50 分にもおよぶ特集番組が放送された。また、来日した高校生たちは、インターネット上の Social Networking Service を通じて交流を継続しているとのことである。こうした活動の一つひとつは大変小さなもので、大海に水滴を落とすようなものかもしれない。しかし、この小さな取り組みの積み重ねが、それらを核としてやがて大きな波紋を形成し、深いレベルでの日中間の相互理解に寄与することを期待している。

◆ SONY の CSR ・ 環境 ・ 社会貢献活動  
<http://www.sony.co.jp/next>